

ニ市内各方面ニ駛走スル公設電車其他ノ交通機關完備セルニ拘ラズ、海上ニ於ケル吾人海員即チ海上市民ノ爲メニハ港灣都市ノ施設トシテ未ダ何等現代ニ適應シタル航通機關ノ研究乃至改善ノ實現セラレシモノナキハ誠ニ遺憾トスル所ナリ

世間周知ノ如ク船渠、又ハ埠頭岸壁ニ繫留セズシテ港面ニ錨泊シ居ル船舶ノ船員ガ久シ振リノ入港ニ際シ、繁劇ナル勞働ノ餘暇ヲ以テ然モ切リ詰メタル極メテ短少ノ時間ニ於テ、陸上ニ一夕ノ慰安ヲ求メ、亦ハ緊急ノ要務ヲ辨ゼントシテ上陸シ、又ハ陸上ヨリ歸船セントスルニ當リ、今尙五十年前以前ノ舊式ニシテ不完全ナル櫓權式通船、然カモ遅々漫々タル通船ニテ、甚シク不廉ナル料金ト驚クベキ長時間ヲ要スル事ハ、現代ノ進歩ニ伴ハザル時代後レノ最モ甚シキモノニシテ、吾人海員ノ到底忍ビ難キ苦痛トスル所ナリ。殊ニ其日ノ生活サエモ尙且ツ支エ難キ程度ノ薄給ノ内ヨリ、斯クノ如キ高價ナル負擔ヲ強イラレ、且ツ極度ニ切リ詰メラレタル定員ノ下ニ於テ、陸上往復ニ空費スル時間ヨリ生ズル勞働分擔ヲ過重ナラシムル海員ノ境涯ニ於テ一層深刻ナ

ル苦痛ヲ直感スルニ到ルハ自明ノ理ナリ。

尙廣義ニ於ケル港灣都市ノ境界即チ市區ト市民ノ概念的範圍ガ如何ナルモノナルカニ就テハ頗ル異論アルナランモ、吾人ノ信ズル處ハ、市區ハ單ニ陸上ノ或ル一定地域ヲ呼稱スルニ止ラズ、其都市ノ抱擁スル港灣内即チ水面モ亦地理的意味ニ於テ當然都市ノ一部分ヲ形成スルモノナリト謂フニアリ。

從ツテ港灣都市ノ繁榮乃至發達ト密接ノ關係ヲ有スル海員ハ、其乗組船舶ノ船籍港ナルト寄港地ナルトヲ問ハズ、又行政的ニ市籍ニ登錄セラレ居ルト否トヲ問ハズ、苟モ其ノ港灣ニ寄港碇泊スル船舶ノ乗組員ハ、即チ直接港灣都市繁榮ノ要素ニシテ廣義ノ意味ニ於ケル市民トシテノ待遇ニ浴スル資格アルモノト確信ス。此點ニ就キ特ニ御賢察ヲ仰ギ度ク茲ニ之ヲ附記ス。

其二、海員ホーム及娛樂機關新設ノ件

貴市ニ入港スル船舶ヨリ慰安休養ノ事由ニヨリ、貴市ニ上陸又ハ滞在スル多數ノ一